

“蠟燭の里 志賀野” 活性化プロジェクト

志賀野生活圏(紀美野町)

現況

【人口】418人 (H27年国勢調査)
 【高齢化率】43.8% (183人)
 【世帯数】164世帯
 (うち1人暮らし38世帯)
 【地域内産業】農業(米・柿・柑橘類・山椒・梅)
 第1次：第2次：第3次
 24%：24%：52%

【生活環境】

金融機関：美里郵便局(紀美野町神野市場)
 学校：野上小学校(動木)、野上中学校(下佐々)
 医療機関：野上厚生病院(小畑)
 紀美野町志賀野診療所(西野) 1日/週
 交通：中核都市が通勤圏内
 (和歌山市約50分、紀の川市40分)
 町営コミュニティバス(厚生病院まで3往復/日)
 町営住宅：5戸

【地域おこし協力隊】平成30年度 1名採用予定

【本地域の状況】

過去に存在した志賀野村が志賀野生活圏のルーツとなる。昭和の町村合併により、その地名は地図から消えてしまったが、地域住民は今もこの名称に愛着を持っており、同名称を掲げたグループの活動もあって、地域外にも認知されつつある。
 近年では、移住者の営むパン屋や古い蔵を改修した飲食店などが人気を博しており、地域内の大型公園と併せて、地域の外から中への人の流れを生む原動力にもなっている。

課題

- ・伝統的な特産物や地域内農業の衰退に伴い、地域の活力が低下
- ・地域産品を地域のPRのツールとして、活用しきれていない。

課題

- ・若年層の流出と高齢化による地域コミュニティの活力低下
- ・地域の歴史、伝統文化の担い手不足
- ・地域への来訪者に、より地域の魅力を伝える工夫が必要

対策



① “志賀野” のブドウハゼ栽培の復活や、製品の販売等を通じて地域をPR

a.特産物の活用【志賀野さみどり会、各地区サロン、老人会、きみの山の恵み研究会】

- ・志賀野原産「ブドウハゼ」の栽培を復活
 ※ハゼの実は、和蠟燭や化粧品、ワックス剤、剥離剤などの原料となる
- ・和紙の原料となるコウゾ、トロロアオイの栽培と、新たな地域工芸品「志賀野和紙」の確立へ向けた取組
- ・イタドリ栽培と加工品開発、および製造販売



b.地域内の米穀類や豆類を、簡易かつ高利益な商品として、ライスパフ(ポン菓子)として加工・販売【志賀野さみどり会】

c.統一したロゴを使用し、「志賀野ブランド」の確立と顧客のイメージ定着を図る。また、地域内の各所や近隣で開催されるイベントで地域産品の移動販売を実施することでPRを展開【志賀野さみどり会】

d.グリーンツーリズムとして、シュロを使った工芸品作りや和紙作り、季節ごとの農業体験活動などを商品化することで、住民の技術や産品を資金に変えながら、地域の魅力を発信
 【志賀野さみどり会、未来de志賀野、未来につなぐ虹の会、定住を支援する会】

対策



② “志賀野” へ移住者を呼び込み、地域の活力の底上げを

- a.地域の既存の移住者受入れ体制を土台に、地域住民の積極的な参加と情報共有ができる体制を整え、今まで以上のスムーズな移住を実現【志賀野さみどり会、定住を支援する会】
- b.地域内の空き家と耕作放棄地情報の収集・活用【志賀野さみどり会】
- c.都市圏の移住フェアや相談会に参加し、移住PR活動を展開【志賀野さみどり会】
- d.移住希望者向けお試し住宅や交流イベントの拠点となる施設を整備・活用【未来de志賀野、志賀野さみどり会、未来につなぐ虹の会】



③ “志賀野” 内外の交流を促進し、地域コミュニティを活性化

- a.地域の歴史・文化を継承していくための活動と、その活動を通じた地域内交流の活性化【志賀野さみどり会】
- b.丹生神社秋祭りや志賀野フェスタ等を通じて、地域内外交流を促進【未来de志賀野、丹生神社総代会、未来につなぐ虹の会】
- c.景観整備や、案内看板の設置により、地域外から人を呼びこみながら、地域内の散策も促す【志賀野さみどり会】
- d.ホームページやSNSを活用した情報発信【志賀野さみどり会】



目指すべき姿

- 地域のPRと農林業の活性化を目的に「志賀野ブランド」を確立し、地域の活力を生み出していく。
- 地域内外の交流促進や移住者の受け入れを加速させることで地域コミュニティの活力を取り戻す。

【事業期間】H29～H31

【事業主体】

志賀野さみどり会、各地区サロン、老人会、未来de志賀野、きみの山の恵み研究会、未来につなぐ虹の会、定住を支援する会、丹生神社氏子総代会

全体事業費：16,504 千円
 県：8,484 千円
 町：8,020 千円